

THE DAY



NEWS LETTER

2024 / 1 / 1 Noboru Morishige

YouTube 森繁昇チャンネル



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、このレターを読んで下さる皆さんへ 2024年1月1日

人となってこの世に来られた人類のたった一人の救い主なる神であるイエス・キリストの誕生に基づいた2024年の新年、明けましておめでとうございます！

この年も、今日から、イエス様の愛による恵みとあわれみが、続けて皆さんに与えられ、皆さんの心が、神様の下さる喜びと平安で満たし続けられるようイエス様にお願いします。皆さん、今年もよろしくお願いします。

私に何ができる？ 所詮チリ

イエス様は、土地のチリで私を造られた。そして、そのチリで造られた私のために、イエス様は、人となって命を捨ててくださった。私が何者なので、イエス様はそれほどまでに、私に心を留めてくださったのでしょうか？ どうして、私を顧みてくださったのでしょうか？ イエス様、私は、あなたの愛を、ほんのわずかしが想像することができないのです。ただただ、ありがとうございます。チリである私に何ができるでしょうか？ その私をあなたが使ってくださらなければ、私に何ができるでしょうか？ 何もできません。私だけで何ができるでしょうか？ 何もできるはずがありません。私は、所詮チリに過ぎないのです。あなたの御業、あなたの恵みとあわれみを感謝します。あなたは、私に言われます。「あなたは、わたしによって、わたしがあなたに言うことが、なんでもできます。」と。

イエス様なしなら、すべてが空しい

12月の2週目の土日に高松市と宇治市でイエス様を伝えるコンサートをさせてもらった。どちらも満席で、歌と話をよく聴いてくださってるようでした。感謝！ イエス様、皆さんをよろしくお願いします。

その日曜の夜、この働きをサポートしてくれる兄弟で、CDをコンサートの場所に送ってくれるHさんのところに行った。毎回帰国すると1回は立ち寄って夕飯を食べながら遅くまで話す。H兄弟のところに立ち寄るときは、だいたい彼の家からあまり遠くないところでやったコンサートの後。彼の家に着く頃には、私の疲れは最高！ その日も、そうだったが、私は12時過ぎまで彼の話しを聞いていたの？ それとも、ほとんど寝ていたのか？

H兄弟姉妹に初めて会ったのは1984年、もう40年近く前。えっ！ H兄弟の奥さんが元気だった頃は、家でバーベキューをやったり、またいろいろな食べ物を用意してみんなに来てもらい、一緒にワイワイ食してから、来られた方に歌を聞いてもらっていた。ホームコンサートだったね。しかし、ここしばらくは、奥さんの体調が良くなって、昔のようなワイワイはやっていません。思い出せば本当に長い間、何度もやらせてもらいました。イエス様、H兄弟姉妹をありがとうございます。あなたのことを聞いた人々をよろしくお願

します。

泊めてもらった次の朝、私は一人散歩に出て、近くのファミマでコーヒーを買った。お店のコーヒーメーカーのボタンを押した後で気がついた…。アー「濃厚」のボタンを押せば良かった。知らなかった。手おくれ。機械はすでにジャリジャリ言ってる。今はだいたいどこもそうだけど、コンビニには座るところがない。ふたをつけないままコーヒーを持って外に出た。車止めに座ろうか？ ひかれるよ！ 前の通りを隔てたところにバス停…。なんと珍しく屋根と壁がついている。車が来ないのを見て、小走りに通りを渡り、そのベンチにしばらく座ったら、人生の空しさを味わいたい気持ちになる…。エッ？ そうなんです。バスが来て、待ってたおばさんが乗った。ドライバーさんが、私が乗る人と勘違いしないようにと、私は知らん顔して座ってた。動かなと見ていたら、まだ、前の降り口のドアが開いている。しばらくたって二人の老人がゆっくりと降りてきた。バスの降り口の高さは歩道の高さとはほとんど同じだが、30センチくらい離れてる…。ばあちゃんはすぐ降りたが、後で降りるじいちゃんは…。ちょっとためらった、が、なんとか渡った。夫婦だろう。二人は歩道を左のほうに歩いて行った。私は知ってた。そこには阪奈病院という病院があるのだ。ああ、そこに行くんだ。ではなかった。病院の手前に横断歩道があって、二人がその歩道を渡ってるのが見えた。二人とも、たぶん1歩が20センチ位の歩幅で、私がコーヒーを買ったファミマにヨチヨチと向かっているのがわかった。ばあちゃんの方がちょっと速く、歩幅もじいちゃんよりも広い。ばあちゃんが最初にファミマのドアを入った。じいちゃんは後ろで何回か止まり、1回は背中を伸ばして深呼吸をしたみたいだ。そしてばあちゃんの後からファミマに入った。

あのじいちゃんとはあちゃんに、私は何ができる？ 何もできない！ そうです。私は何もできない、涙…。それが私。「あの人たちは私の管轄じ

ゃあない！」そう言うのは簡単だが、なら、日本中がそうじゃん。そうかもしれない。が、あまりにも、私には、なにもできない。いや、全く何もできない。私は、その空しい気持ちをしばらく感じていたかった…。

数日後、私は、その事を思い出しながら、埼玉のコンサートに向かう新幹線に乗っていた。家々が後ろに飛ぶ…、時間も…。日本は小さい国。違うよ！ イエス様を伝えるべく、おおお大きな国です。泣くね。イエス様、どうか、日本の国の人をあわれんでください。私たち、あなたを知ってる者を奮い立たせ、あなたの御心を、あなたが喜んでくださる心でやらせてください。よろしくお願いします。

よく聞いてくださった3人の男性

12年前に私を呼んでコンサートを計画してくださったSさんが、この冬、また連絡して来てくださった。Sさんの友達の一人が、来年引越されるので、その前にイエス様のゴスペルを是非伝えたいということで連絡があったのです。その方はBさん。私より一つ年上の静かな男性。今はコンピューターを使って自宅で一人で仕事をされてるとか。以前料亭だった2階の部屋にBさんは間借りして居られ、私は、その2階の別の広間でコンサート。BさんはSさんから私のことを聞いておられたようで、自分の友達にも声をかけ、それで彼の二人の友達も来てくださった。前もって私がSさんに送っていたCDを皆さん聞かれておられたのか、Bさんの二人の友達の一人の方が2階の畳の部屋に上がって来られたらすぐに、私に丁寧に挨拶されました。「私は今日、森繁様にどうしてもお会いしたくて参りました、森繁様は山口県出身と伺いましたが、田布施というところを知っておられますか？」優しく話しかけてくださったのは81歳のKさん。「はい、知っていますよ。田布施町は私の故郷熊毛町の隣村です」と答えると、「私は、63代内閣総理大臣 佐藤栄作の直参

秘書でありました」と嬉しそうに言ってくださり、私も嬉しくなった。Bさんのもう一人の男性の友達Tさんも、興味深く私の歌と話を聞いてくださいました。Bさんは、私のすぐそばで、コンサートの初めから終わりまでビデオを撮っておられました。こられた方は全部で10人くらいだったと思いますが、イエス様に感謝でした。コンサートの終わりに、その三人の男性の方に、「どうか、聖書を読んでみてください。もし、持っておられなかったら送りますよ。そして、イエス様の御心なら、来春、暖かくなったら、ここでバーベキューと聖書を読む会みたいなのをしましょうよ。要るものは私が準備しますから」「イイねー」「できたらやりましょうよ」そんな様子で、コンサートは終わった。山口に帰って、3冊聖書を送りました。イエス様、皆さんをよろしくお願いします。

切符が飲み込まれて怒り、怒鳴った愚かな男 アカンなー！ 全くあかん！

私は、コンサートの次の日に、もし、何も予定が入ってない自由な日なら、そして、もしそれが可能なら、その晚いくら遅くなくても、山口の自分の家に帰ってゆっくりしたい。それと、家でやることも多くあるので、次の日を朝からフルに使いたいのです。

あれは確か群馬県の桐生でコンサートをさせてもらった日曜日でした。

高崎まで牧師の息子さんに車で連れて行ってもらった私は新幹線で東京駅へ。東京駅での乗り継ぎもよく、私の好きな品川弁当も買って、すでにちょっとリラックス。大阪で「さくら」に乗り換えた時もあまり待たずに乗れた。徳山で新幹線から在来線に乗り換えた時、ちょっとは待ったが、考えていたよりもはるかに早い10時頃に下松駅に着いた。うれしいー！「あーやっ和下松まで帰ってきたなー」

マンドリンとビオラを地面に置いて、切符を財布から取り出し、改札の機械に切符を入れた。そ

して、また楽器を両手に抱えて、あの狭い通路を通ろうとしたら、ビオラが入り口で引っ掛かり、通るのにちょっと手こずる。私も荷物も改札の壁に思いっきり挟まれたまま、なんとか通過できそう。で、前の方に出てきた切符を取ろうとしたときです。なんとー！切符が、いきなり、その機械に飲み込まれた…！えー！たまげた私は、思い出していた。駅は夏頃から時間帯によって無人駅になったのだ。電気の消えている事務所の方に向かって、「誰かおらんのかー！」と怒り声が響く。誰も出てこない。切符を入れたとこのそばにインターホーンと書いてあるボタンがある。押すと、「ただいま混み合っていますので少々お待ちください」その声はますます私を怒らせた。しばらく待ったが返事がない。ううう…。何度もボタンを押したが返事がない。「せっかく早くここまで帰ってきたのにいー!!!」と苛立ちと怒りが…。「何をしてる、早よう出てくれんかー」と言いながらボタンの横を怒りの手で強くたたいた。それからだいぶんたって「お待ちせしました」とインターホーンが言った。結局、今晚はどうしようもないので、明日切符を取りに来るように言われた。インターホーンが話を終えようとした時私は、歯痒い気持ちをぶちまけて、大きな声で、「明日取りに来るのに、あんた、わしの名前も住所も聞かなくてもいいのか??? 誰の切符かわからんじゃあないか!!!」と言うと、「お名前はなんと云われますか?」「もりしげのぼるだ!!」すると改札口の反対側の椅子に数人座っていたひっそりした構内に、「怒鳴ってるこの愚かな男は、もりしげのぼるです!」と響き渡った。

心は天に

私の兄は、私がアメリカから帰った翌年の1979年から「朋友商事 (For You Shoji)」という名前の不動産屋をこの田舎町下松市で始めた。今はもう会長と呼ばれてるから、毎日会社には行かないで、別の仕事で忙しくしてるよう。約10

年くらい前に、同じ町に売りに出ていたあばら屋を、私の拠点にするために安く買って以来、私は兄の仕事を通して大いにイエス様から恵みをいただいている。そのことには、姉も大いに関わってくれている。彼らの仕事の中で、古い家を壊して新しく家を建てたり、また、壊して更地にして売るというのがあるのです。そういう時、家の中にある全てのものの処分も頼まれることがあって、そんな家が出ると、姉が毎回私に「使えるものがあつたら、なんでも持って行っていいよ」と連絡してきます。今回、姉に連れられて下見に行ったとき、私は何をもらうかすでに決めていた。「この家、壊すん？ ゲー、僕の家は何倍もええやん！ しんじられん！」私に言わせれば、その家は下松市の一等地にある。全て生活に必要なものは歩いていける。大きなショッピングモールまで3分。ヤマダ電機2分。医者関係も近い。それでいて静かな裏通り。近くに新築の家も多い。えーこれ壊すん？ 子供がいない老夫婦が亡くなり、甥や姪がここを更地にして売るのだそうだ。「金があつたら老後のために私が買いたい！」そんな思いが一瞬頭をよぎった。老後って何時？ ガッハー！

昔はよく見かけたあのしっかりしたダイニングの椅子4つとテーブル、それと旅館の部屋の窓のそばに置いてあるようなガラストップのテーブルと椅子2つは使える。私は、それらをもらうことにした。家はきれいに掃除され完璧に整頓されていた。すぐにも住める。タンスから何から全て良い家具。けやきのテーブルは、なんとも良いねー。外国製で木の彫りの置物やガラス細工、大きなケースの中には博多人形、入ると勝手に蓋が開く

最新のトイレ(私のぼっちゃんトイレとは違う)、書斎の立派な机、天井まである幾つかの本箱には大きく分厚い百科事典、世界旅行の本などがぎっしりと立っている。しかし、もう住人は死んでいない。子供はなく、甥や姪が相続する…。私はこれを見ながら、これがほしいなあ、あれもほしいよと、しばらく欲張り爺さん…。で、優しいイエス様をおもう…。これらを欲しいと思ってるが、俺も、この人達と同じように、持ってるものみんな残していなくなるんだよね。イエス様が昔教えてくださったあの、「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。…」を、また思い出させてもらう(もちろん、物が悪いのじゃあない)。心は「天でのイエス様からのほうびを待ちたいよー。心を天において生きてーい。イエス様、そうさせてくださーい…」の願いに思いを潜めていると、イエス様が私を喜ばせてくれる。で、思い出していた。

「母の胎から出てきた時のように、また裸でこの世を後にする。自分の労苦によって得た何一つ、手にたずさえて行くことは無し。」

皆さん、どうか、イエス様の愛をもらってください。

「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。」(マタイ6・19)

「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ1・21)

Noboru Morishige

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24
FAX▶ 0833-91-6492
E-mail▶ thewindisblowing@hotmail.com
HP▶ <http://thedaywill.com>

振替口座▶ 01330-4-93687 ザ・デイ

Noboru Morishige
P.O.BOX 1666
KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A
TEL ▶ 808-966-9252